

*小さな活動が種となって、大きく育つ「守山」をイメージしてタイトルをつくりました。



中町住民が故郷に捧ぐ歌を作りました

中町に伝わる伝統行事や地元言葉 ふるさとの思い出と景色を心に描いて

コロナ禍の影響でご近所や住人同士が顔を合わせることもできなくなった頃、中町在住で、作詩を趣味にする田中伊久男さん(77歳)と、音楽活動で施設慰問のボランティアなどをしていた河村悦子さん(63歳)は、皆で歌い喜び合い絆を深められたら、とご近所の人々や景色、「餅つき神事」など地元で伝わる伝統行事を思い出しながら「想いつづける故郷よ」(作詞：田中さん、作曲：河村さん)という歌を制作しました。

ようやくコロナ禍が収束、少しずつ復活してきた地元行事、高齢者向けのサロンに出演したエンターテイナーの歌で初お披露目されました。



青木 正義 中自治会長のコメント

地元を愛する住人2人で作ってくれた気持ちがありがたいと思います。歌を聞いて、懐かしさがこみあげました。これから、まちおこしなどで使い、広げていけたらと思っています。

社協から 今月のお知らせ



いつでもお待ちしております!

ボランティア参加の支援

～主役はあなたです。新しいこと、始めませんか～

“ボランティア (volunteer)”は、ラテン語の volo(～を欲する、喜んで～する)を起源とします。これは英語の will(志す、進んで～する)に符号する言葉です。この volo の派生語 voluntas(自由意思)に人を表す接尾辞 er が加わって、volunteer となりました。

市内でも、地域の人が暮らしやすいように、特技や趣味を活かしながら、ボランティア活動が展開されています。

活動を通じて、人と知り合い、絆を深め、経験や技術を身につけ、いつの間にか双方が「元気の源」になっています。

ボランティアに興味のある人、何か始めたいけれどどうすればいいかと悩んでいる人は、気軽にお問い合わせください。



ボランティア相談・紹介・調整 ～誰かの力を借りたいときは～

守山市ボランティアセンター(社協内)には、さまざまな分野のボランティアグループや個人が登録されています。

自治会のサロンや子ども会の行事、施設などのレクリエーションを盛り上げたり、すてきな音楽を奏でる人、子育てや日々の生活での困りごとの手伝いをするグループなどと地域の橋渡しをセンターが支援しています。

ボランティアの力を借りたいときは、ぜひ、ご相談ください。



ある社会福祉士のひとこと

滋賀県はボランティアをする人が多い

総務省が5年ごとに行う社会生活基本調査(令和4年9月公表)によると、滋賀県は、ボランティア活動の行動者率が全国4位となっています(行動者率とは、10歳以上人口に占める、過去1年間に該当する種類の活動を一度でも行った人の割合のことです)。

全国的には、ボランティアの率が、20年前と比べ約11%減少しています。年齢別では65～69歳が23.4%と最も高く、25～29歳が10.1%と最も低くなっています。社協では、たくさんの人に参加・参画してもらえるよう、活動内容やその情報発信の工夫をしています。



守山市社会福祉協議会

☎・☎(583)2923 FAX(582)1615

✉fukushi@moriyama-shakyo.or.jp



ホームページ